

単元名 4 人間のきずな ー聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す 配当時間 1時間

単元の目標 (1) どのように質問すると、相手がさらに話したくなるかを考えることができる。
(2) 話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をすることができる。
(3) 粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとする。

標準的な展開例

11210203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 相手の話を受け止めながら、インタビューをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 相手の話を受け止めながら、インタビューをしよう。 ○ インタビューの準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「今、夢中になっていること」や「私が輝く瞬間」をテーマにインタビューの準備を行う。 ○ インタビューを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 ・ 「話し手」「聞き手」「聴衆」の役割を交代しながらインタビューを行う。 ○ 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「話し手」「聞き手」「聴衆」それぞれの立場から、気付いたことや考えたことを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話し手としての準備」，「聞き手としての準備」の両方をさせる。 ・ 聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すようにする。 <p>【評】インタビューを行う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC-(14)家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。